

非常持ち出し品の例

特集

「防災力」は「想像力」。

ものの編

一人一人が必要なものを備える。

大規模な災害が発生すると、電気・ガス・水道の不通などによるライフライン被害や、道路の寸断などによる物資供給の停滞が発生します。少なくとも1週間は誰にも頼らずに生き抜くことができるように備えること。それが災害備蓄です。

ここでは、「非常持ち出し品」と「災害備蓄品」の例を紹介します。この例を踏まえ、自分や家族に必要なものを考え、備えましょう。



携帯電話・
モバイルバッテリー



懐中電灯



携帯ラジオ



現金
(千円札・
10円玉・100円玉)



ビニール袋



ティッシュペーパー
・ウエットティッシュ



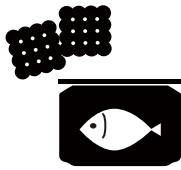
常備薬・
救急用品



免許証・保険証、
通帳・印鑑など



飲料水



加熱せず食せる
非常用食品



ライター



軍手・ナイフなどの
生活用品



タオル



電池



ヘルメット



眼鏡・
コンタクト

「非常持ち出し品」と「災害備蓄品」には大きな違いがあります。「非常持ち出し品」は災害が起きている現場から安全に避難し、数日間の避難生活を送るために欠かせないもの。「災害備蓄品」は避難先などから自宅に戻った際などに、避難生活を自宅で送るために用意するものです。非常持ち出し品はリュックなどの背負えるバッグにまとめ、緊急時にすぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。また、あれもこれもと詰め込みすぎて持ち運べない、ということがないように、実際に荷物を持つて避難所に行くことができるか確認しておくことが大切です。

災害備蓄品は普段から使い慣れている物・食べ慣れている食品を最低1週間分用意しておきましょう。自宅が損傷していても取り合出せる場所に保管しておいてください。